

2019年8月10日

日本選挙学会会員各位

日本選挙学会 2019 年度査読委員長 飯田 健  
第36巻編集委員長 竹中佳彦

## 『日本選挙学会年報 選挙研究』の第36巻第2号特集論文公募、 および第36巻の編集・査読スケジュールについて

### 1 『選挙研究』第36巻第2号小特集論文公募のお知らせ

『日本選挙学会年報 選挙研究』36巻第2号(2020年12月刊行予定)は、小特集として、「2017年衆院選・2019年参院選の分析」と「選挙と憲法改正」を考えております。これらの小特集については、依頼原稿とともに、学会誌であることを考慮し、会員から広く論文を公募したいと思います。

前者は、近年の国政選挙についての実証的な研究を特集しようとするものです。国政選挙の政治学的分析だけでなく、メディア報道、選挙管理、一票の格差をめぐる判決の検討などを主題とした論稿でもかまいません。

後者の憲法改正については、第1に、憲政史上最長の政権となるであろう安倍首相の宿願であり、2019年参院選を含めて、国政選挙でも公約として掲げていること、第2に衆参両院で3分の2以上の多数を占めないと発議ができないという点で、衆参両院の選挙が連動する争点であること、第3に有権者は重要性を認識しながらも(特に9条問題は)hard learningな 이슈であり、投票行動に表れにくい争点であること、すなわち現在の政治において顕出性の高い争点であり、選挙制度、政党の戦略、有権者の政治意識など複数の論点を持っていることから、小特集として取り上げようと思います。これも政治学的分析に限らず、政治制度や選挙制度の設計に関する憲法学や社会選択論的研究、各国憲法の比較検討、国民投票を念頭に置いた住民投票事例の検討などでもかまいません。

いずれの小特集についても、政治学、法学、経済学、社会学、メディア論など、多様な分野からの投稿をお待ちしていますので、以下に掲げる編集・査読スケジュールを参考にして論文をご投稿ください。2020年2月までにご投稿いただき、円滑に査読が進めば、掲載となります。

### 2 『選挙研究』第36巻の編集・査読スケジュールについて

会員の皆様が論文を投稿する際に計画を立てやすくすることを目的に、『選挙研究』の基本的な編集の周期と査読に要する期間をご案内します(以下の記述は、浅野正彦2015年度査読委員長・前田幸男第32巻編集委員長がご作成になったものに準じています)。

#### (1) 『選挙研究』の編集・入稿のスケジュールについて

『選挙研究』は毎年2号発行されております。各巻の第1号が6月、第2号が12月に刊行されます。出版社への入稿は第1号が2月末、第2号が8月末です。編集委員会からの依頼論文や書評の場合は、著者への依頼時に締め切りを伝えていきます。査読論文につきましては、紙幅の許す範囲内で、2月末に最終稿が間に合った論文は第1号に、8月末に最終稿が間に合った場合は第2号に掲載されます。

## (2) 『選挙研究』の査読スケジュールについて

現在、選挙学会は『[選挙研究論文投稿システム](#)』を通じて、投稿を受け付けています。受付終了後、査読委員会では、電子メールを用いた審議等を通じて、適宜、匿名査読者の選定、ならびに査読依頼をしております。したがって投稿から最初の査読結果が戻るまでに要する時間は、当該論文の完成度にもよりますが、約3ヵ月程度です。修正・再査読の場合、査読結果に応じて再投稿がなされてから、最終結果が出るまでにやはりヵ月月程度かかります。修正・再投稿に要する時間にもよるのですが、最初の投稿から最終結果の確定まで、最短で6ヵ月から7ヵ月の時間がかかると予想されます。

したがって年2号体制では、**8月頃までに**投稿すれば、最短で翌年2月末までに査読のプロセスを終えて第1号に最終稿を入稿できることとなります。ただしこれは査読および再投稿が円滑に進んだ場合の想定ですので、必ずしも第1号への掲載が保証されるわけではないことをご理解ください。同様に、**2月頃までに**投稿頂いた場合、査読が円滑に進めば、8月末までに査読のプロセスを終えて第2号に最終稿を入稿できることとなります。繰り返しになりますが、上記はあくまで所要時間の**見込み**であることをご理解ください。

## (3) 掲載証明書について

査読を経て掲載が決定した論文につきましては、編集委員長名で掲載決定の証明書をお出しすることが可能です。

## (4) 投稿日・最終稿提出日について

『選挙研究』第36巻第1号および第2号については、第36巻編集委員会の責任で投稿論文の投稿日および最終稿提出日を適切な場所に記載します。

ご参考までに、投稿から論文掲載までの「流れ」と「予想される期間」を以下に示します。

<u>担当者(作業内容)</u>	<u>予想される期間</u>
投稿者(論文投稿)	
➡ 編集委員長(形式要件のチェック)	<u>数日</u>
➡ 査読委員長(担当査読委員の委員会への提案)	
➡ 査読委員会(メール審議)	
➡ 専門分野担当の査読委員(レフリー候補提案・決定)	<u>数日</u>
➡ 査読委員長(レフリーに査読承諾の打診)	<u>1週間程度(遅れることあり)</u>
➡ レフリー(査読)	<u>1ヵ月(遅れることあり)</u>
➡ 査読委員長(査読結果の集約、結果通知案)	<u>数日</u>
➡ 査読委員会(査読結果をメール審議) <sup>1</sup>	
<b>① 審査を通過した場合</b>	
➡ 査読委員長(投稿者、編集委員長)への通知	
➡ 投稿論文が掲載	
<b>② 審査を通過しなかった場合</b>	
➡ 投稿者による論文の修正・再投稿	<u>数ヵ月(投稿者による)</u>

- |                                  |                     |
|----------------------------------|---------------------|
| ➡ 査読委員長(形式要件のチェック)               | <u>数日</u>           |
| ➡ レフリー(再査読)                      | <u>1ヵ月(遅れることあり)</u> |
| ➡ 査読委員長(査読結果の集約、結果通知案)           | <u>数日</u>           |
| ➡ 査読委員会(査読結果をメール審議) <sup>2</sup> |                     |
| ➡ 査読委員長(投稿者、編集委員長への通知)           |                     |
| ➡ 再投稿論文が掲載                       |                     |

以上です。多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

---

<sup>1</sup> 判定が微妙なときは年 4 回の正規委員会で検討。

<sup>2</sup> 判定が微妙なときは年 4 回の正規委員会で検討。